

「病気になっても頑張れる」

## 大沢さんミニ個展

マクラメ、製鉄室蘭病院で



全国手工芸コンクールなどで入賞したマクラメ作品と制作者の大沢さん

室蘭市絵鞆町のマクラメ作家、大沢ユウ子さん(74)のミニ個展が、知利別町の製鉄記念室蘭病院1階フウンジで開かれている。ひもや糸を手で結び、風景などの絵柄を表現した大作タペストリーが披露され、来院者の目を和ませている。

大沢さんは1974年(昭和49年)、32歳で甲状腺がんを患い、2度の手術を受けるなど病と向き合ってきた。つらい日々の中、熱中できる趣味として始めたのが「結びの手芸」といわれるマクラメだった。81年に講師資格を取得した。

市内や出身地の青森県で教室を開き、全国手工芸コンクールなどへ出品、数々の入賞、入選を果たした。作品展も積極的に行い、マクラメの普及に力を注ぐ。

同コンクールで優秀賞の「ねぶた」(95年)、入選の「山と生きる洞爺湖」(01年)、北のアイデア手作りコンクールで道知事賞の「津軽富士 岩木山」(87年)などを展示した。カラフルで手の込んだ迫力満点の力作に、来院者は「見事だね」と見入っていた。

「長い間お世話になってる」という同院での初めての作品展。「病気になっても頑張れる姿を見せたい。作品に魂を吹き込み未来に残したい。患者さんの心の安らぎになれば」と話している。展示は28日まで。

(成田真梨子)